

(平成20年6月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>6月期の野菜の入荷状況は、上、中旬では前月から続く低温や日照不足によって、根菜類、葉菜類、果菜類に共通して生育の遅れや作柄の悪化が見られ、多くの品目で入荷が減少した。また、土物類においては、中央市場の集散機能によって前年並みの入荷量となったものの、生育期や収穫期の降雨によって品質、入荷状況ともに不安定であった。下旬には、生育が遅れていた品目の入荷も回復したが、全体としては前年同期を7%下回った。</p> <p>価格は、入荷減の影響を受けて単価高で推移した品目が多く、概ね前年並みの入荷量となった土物類においても不安定な入荷状況から単価高で推移し、全体としては前年同期を16%上回る結果となった。</p> <p>品目別には、西洋にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、レタス、きゅうり、ナス、ピーマン、青梅が入荷減の単価高となり、バレイショ、玉葱は入荷前年並みの単価高となった。</p> <p>根菜類は、入荷が6%減少し、価格は38%高となった。 葉菜類は、入荷は11%減少し、価格は10%高となった。 果菜類は、入荷は6%減少し、価格は11%高となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は33%高となった。</p>
果 実	<p>6月期の果実の入荷状況は、原油高騰による生育初期の加温抑制に加えて、前月から続く低温と日照不足が重なって作柄が悪化し、ぶどう類、スイカ類の入荷は減少した。桜桃、アールスメロンは入荷増となったものの、全体としては前年同期を13%下回った。</p> <p>価格は、多くの品目で需要の低迷が見られるものの、大幅な入荷減となったぶどう類、スイカ類では単価高となり、全体としては前年同期を4%上回った。</p> <p>品目別には、ハウスみかん、桜桃、アールスメロンが入荷増の単価安、デラウウェア、大玉スイカは入荷減の単価高となった。</p> <p>柑橘類は、入荷が6%減少し、前年並みとなった。 りんご類は、入荷が8%減少し、前年並みとなった。 ぶどう類は、入荷が28%減少し、価格は6%高となった。 メロン類は、入荷が前年並みで、価格は9%安となった。 スイカ類は、入荷が23%減少し、価格は10%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p>	<p>青森県，北海道を中心に，千葉県，茨城県，長崎県からの入荷。各産地ともに栽培面積が減少しており，入荷量は前年同期を4%下回った。 価格は，入荷が減少したものの，単価に大きな変動はなく，概ね前年並みとなった。</p>
<p>西洋人参</p>	<p>長崎県を中心に，兵庫県，和歌山県からの入荷。全国的に極端な品薄状況が続いており，中央市場の集散機能は発揮されたものの，入荷量は前年同期を9%下回った。 価格は，前月までの主産地である徳島県からの入荷が終了したことで，全国的な品薄状況に拍車がかかり，前年同期を9.3%上回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>長野県を中心に，茨城県，滋賀県，大分県からの入荷。各産地ともに5月に続いた低温，早魃によって作柄は悪化し，入荷量は前年同期を5%下回った。 価格は，中旬に茨城県からの入荷が終了し，入荷量が大きく減少したことで単価高となり，全体としては前年同期を1.7%上回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>茨城県，京都府を中心に，兵庫県，長野県からの入荷。白菜同様に5月の低温，早魃によって生育が遅れ，入荷量は前年同期を9%下回った。 価格は，入荷が減少したことから，前年同期を4%上回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>岐阜県を中心に，茨城県，滋賀県，北海道からの入荷。主産地である岐阜県では，低温や日照不足によって入荷量は大きく減少し，前年同期を2.5%下回った。 価格は，入荷が減少したことから単価高での推移となり，前年同期を1.4%上回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長野県を中心に，群馬県，山梨県，北海道からの入荷。5月の低温，早魃に加えて，中旬の集中的な降雨の影響を受けて，入荷量は前年同期を2.2%下回った。 価格は，不安定な入荷状況によって乱高下が見られたが，全体的には入荷減の影響で単価高となり，前年同期を1.7%上回った。</p>

<p>【果菜類】 きゅうり</p>	<p>滋賀県を中心に，宮崎県，高知県からの入荷。低温と日照不足の影響で生育は遅れ，入荷量は前年同期を14%下回った。 価格は，入荷が減少したことによって高値推移し，前年同期を6%上回った。</p>
<p>なす</p>	<p>高知県を中心に，岡山県，京都府からの入荷。加温用重油の高騰によって加温を抑制したことに加え，5月の低温と日照不足が重なって生育は遅れ，入荷量は前年同期を15%下回った。 価格は，入荷が大幅に減少したことに加え，需要も安定しており，前年同期を35%上回った。</p>
<p>トマト</p>	<p>北海道を中心に，熊本県，京都府からの入荷。主産地である北海道からは順調な入荷となり，入荷量は前年並みとなった。 価格は，入荷が増加した下旬に単価安となったものの，全体としては前年並みとなった。</p>
<p>ピーマン</p>	<p>宮崎県，茨城県を中心に，高知県，大分県からの入荷。茨城県，大分県では低温と日照不足によって生育が遅れ，入荷量は前年同期を9%下回った。 価格は，入荷の減少から単価高で推移し，前年同期を15%上回った。</p>
<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p>	<p>長崎県を中心に，熊本県，北海道からの入荷。主産地の長崎県では生育期の低温と降雨によって作柄は悪化したが，中央市場の集散機能が発揮されたことで，入荷量は前年並みとなった。 価格は，全国的な品薄状況に加え，前年が豊作の単価安であったことにより，前年同期を72%上回る結果となった。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>兵庫県を中心に，佐賀県，北海道からの入荷。各産地ともに生育は順調で大玉傾向となったものの，収穫期の雨天によって，入荷量は前年並みに留まった。 価格は，収穫期の雨天により品質が不安定であったものの，根強い需要によって単価高となり，前年同期を10%上回った。</p>
<p>【その他野菜】 青梅</p>	<p>和歌山県を中心に，福井県，奈良県，京都府からの入荷。 各産地ともに，開花期の低温によって着果数が減少気味となり，生育は順調であったものの，入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は，入荷が減少したことに加え，品質が良好であったことから，前年同期を35%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
ハウスみかん	<p>佐賀県を中心に、和歌山県、長崎県からの入荷。低温や日照不足によって生育の遅れていたものが、6月に集中した入荷となり、入荷量は前年同期を6%上回った。</p> <p>価格は、入荷の増加に加えて、需要も伸びず、前年同期を6%下回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森県からの入荷。産地での在庫は前年並みであり、京都市場への入荷量及び価格は前年並みとなった。</p>
桜桃	<p>山形県、山梨県を中心とする入荷。前年が凶作の入荷減であったことに加え、山形県では前進出荷が行われたことで、入荷量は前年同期を23%上回った。</p> <p>価格は、需要は高かったものの、前年が極端な単価高であったことから、前年同期を10%下回った。</p>
デラウェア	<p>島根県を中心に、奈良県、大阪府からの入荷。加温用重油の高騰によって加温を抑制したことで生育が遅れており、入荷量は前年同期を23%下回った。</p> <p>価格は、入荷減によって、前年同期を7%上回った。</p>
アールスメロン	<p>熊本県を中心に、静岡県、高知県、宮崎県からの入荷。各産地ともに作付面積が減少しているが、熊本県からの入荷が新しく加わったことで、入荷量は前年同期を21%上回った。</p> <p>価格は、入荷増の影響を受けて、前年同期を18%下回った。</p>
アンデスメロン	<p>熊本県を中心に、茨城県、山形県からの入荷。低温や日照不足によって遅れていた生育は下旬には回復し、入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、下旬に入荷が増加したことで単価安となり、前年同期を13%下回った。</p>
大玉スイカ	<p>鳥取県を中心に、熊本県、長崎県からの入荷。主産地の鳥取県では開花期の天候不順によって着果不良となり、入荷量は前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は、入荷減に加え、品質が良好であったため、前年同期を11%上回った。</p>